

財務部

【総括判断】

項 目	25年1-3月期	25年4-6月期	前回との比較	足下の動き
総括判断	回復しつつある	緩やかに回復している	↑	国内外からの好調な旅行需要を背景に、観光関連企業や小売業等から、景況感について明るい声が聞かれているなど、緩やかな回復が続いている。

【各項目の判断】

項 目	25 年 1-3 月 期	25 年 4-6 月 期	前回との比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	↑
観 光	回復しつつある	緩やかに回復している	↑
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	→
設備投資	前年度を上回る見込み	前年度を下回る見通し	↓
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	→
生産活動	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	↑
企業収益	増益見込み	減益見通し	↓
企業の景況感	現状判断は「上昇」超幅が拡大している	現状判断は「上昇」超幅が縮小している	→

Point

〈足下の動き〉
国内外からの好調な旅行需要を背景に、観光関連企業や小売業等から、景況感について明るい声が聞かれているなど、緩やかな回復が続いている。
〈先行き〉
沖縄振興策等を背景に、景気回復が確かなものとなるなかで、海外景気の下振れリスクや原材料価格の動向などについて、引き続き注視していく必要がある。

管内経済情勢報告
管内経済は、緩やかに回復している

【主要項目の動向】

個人消費 [緩やかに回復しつつある]

大型小売店販売額は、気温の上昇とともに夏物衣料品や冷感寝具などに動きがみられ、新規出店効果もあって前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、新規出店効果や挽きたてコーヒー販売の展開による来店客数の増加などから前年を上回っている。

新車販売台数は、軽自動車に足踏みがみられることなどから前年を下回っている。

中古車販売台数は、販売促進効果から前年を上回っている。

家電販売額は、前年を下回っているものの、これまで低調に推移していた薄型テレビに改善の動きがみられる。

このように、個人消費は緩やかに回復しつつある。

観光 [緩やかに回復している]

入域観光客数は、国内客がLCCの就航や新石垣空港の開港などから増加し、外国客が航空路線の拡充や大型クルーズ船の寄港、円安を背景とした旅行需要の高まりにより増加したことから前年を上回り、4ヶ月連続で単月の過去最高を記録している。

ホテルの客室単価は前年を下回っているものの、客室稼働率は前年を上回っている。

このように、観光は緩やかに回復している。

雇用情勢 [緩やかに持ち直している]

新規求人数は、宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉業を中心に増加し前年を上回っており、新規求職者数は前年を下回っていることなどから、有効求人倍率（季節調整値）は引き続き上昇している。

このように、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

【その他の項目の動向】

住宅建設

新設住宅着工戸数は、貸家では前年を下回っているものの、持家、分譲では前年を上回っており、全体でも前年を上回っている。

設備投資

法人企業景気予測調査（25年4～6月期）でみると、全産業では前年度を12.3%下回る見通し（除く、石油・石炭、電気・ガス・水道では5.0%上回る見通し）となっている。

公共事業

公共工事前払金保証請負額（25年4～6月累計）は、前年を上回っている。

生産活動

食料品は、食肉加工品や酒類の一部が前年を上回っており、全体でも前年を上回っている。窯業・土石では、生コンやセメントの出荷が前年を上回っている。石油製品、金属製品も前年を上回っている。

このように、生産活動は緩やかに持ち直している。

企業収益

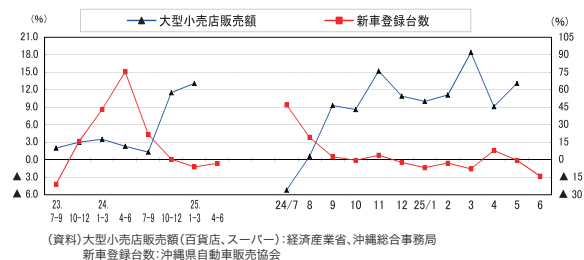
法人企業景気予測調査（25年4～6月期）でみると、25年度上期は、全産業で0.6%の増益見込みとなっている。25年度下期は、全産業で6.5%の減益見通しとなっている。25年度通期は、全産業で2.9%の減益見通しとなっている。

企業の景況感

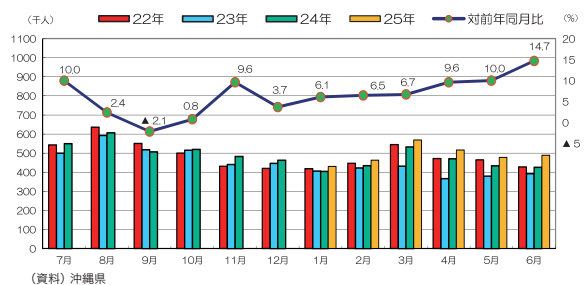
法人企業景気予測調査（25年4～6月期）でみると、製造業では、「下降」とする企業が減少していることなどから「上昇」超に転じている。非製造業では、運輸・郵便、サービスで「下降」とする企業が増加していることなどから「上昇」超幅が縮小している。

この結果、全産業では、「上昇」超幅が縮小している。

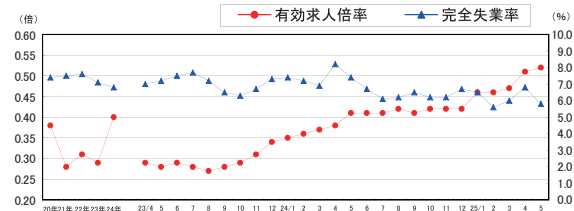
○大型小売店販売額、新車登録台数（前年比）



○入域観光客数（前年比）



○有効求人倍率及び完全失業率



○新規求人数（前年比）

